

第一次国共合作期におけるコミンテルン 軍事顧問の役割 (IV)

— А.И. Черепанов : Записки Военного Советника
в Китае — を中心として

滝本可紀

On the Role of Advisers of Comintern in the Period of the First
Kuomintang and Chinese Communist Party Cooperation (IV)

Yoshinori TAKIMOTO

Abstract

The First Kuomintang Congress was held in January 1924. Sun Wen intended to reorganize the party and to draw up general regulations, party principles and Manifesto. At the same time he developed an alliance with the Comintern. This alliance meant cooperation with the Chinese Communist Party. Черепанов and Трешатов arrived here during the Congress. This part deals with the First Kuomintang Congress.

1924年1月20日、広州に於いて国民党第一次全国代表大会が開かれた。ここで行われたのは党の改組であり、また「連ソ、容共、労農援助」の三大政策の決定であった。国民党を今までの秘密結社的な小人数の党から大衆に基礎を置く組織に変え、一揆的な武装蜂起や軍閥の軍事力に頼ることをやめ、大衆を基盤とする政府の樹立と、自己の革命軍を持つ方向に進んだ。これによって民族の解放という最大の目的を達成することを意図した。またこれを達成するための具体的な政策として三大政策がとられた。欧米列強及び、新たな登場者である日本に対抗するためにはソ連との連携、国共合作、労農援助による国内改革の促進は孫文にとって絶対に欠くことのできないものであった。

ЧерепановはТрешатовと共に1924年1月25日、広州に到着した。それは国民党一全大会第6日目であった。その日、レーニンの死という通知が本大会にもたらされた。大会はレーニンの死に服喪するため3日延期され、28日に再開、29日に終了した。Черепановの手記のこの部分は孫文が種々の妨害にも拘らず、Бородин

の助言を得て、新しい三民主義のもと国民革命の基礎を成功裏に作りあげたドラマがБородинのメモに基いて記されている。以下は Записки Военного Советника в Китае 中の1 КОНГРЕСС ГОМИНЬДАНА の全訳である。

国民党第一次全国代表大会

1929年12月9日、広州の国民党各地区組織の総会が開かれ、そこで、党規約及び国民党の地方支部創設の問題が討議された。その時までに、62のそのような支部がすでに活動していた。国民党員は7780名に達していた。

国民党中央執行委員会決議に基づき、各支部は各一名の書記及びオルグを置く必要があった。ここでも上海と同様に、あわてて偽の支部を捏ち上げ、でたらめの選挙を行った政治屋がかなりいた。名簿にある名前をそのまま黨員に仕立てたようなケースもあった。ある例では、1人の労働組合の活動家が約600名の組合員を引き連れて来て、自分が所属している組合員全部が国民党に加入した、と声明した。国民党員の数を増加させようと、楊希閔將軍は自分の支配下にある部隊

に次のような一風変わった命令を発した：国民党に加入していない者全員は3日以内に、現在まで国民党に入党しなかった理由、及び何時、加入するかを説明する書類を提出しなければならない、とした。

陳独秀は国共合作の最初から、事実上、中国の民族解放革命の指導権を完全に国民党の手に渡していた。彼は中共中央委員会の代表を国民党中央執行委員会の上海ビューローに入れるための方策を何等とらなかつた。

それにも拘らず、中共中央委員会はコミュニスト達に呼びかけて、国民党の改組に協力し、国民党の新支部の創設のために自己の代表者を送り込み、すでに支部が存在している場合には合同委員会を創り、また一全大会の代議員選挙に積極的にかかわろうとした。その後、上海に於いて、中国共産党の活動はより活発になり始めた。

12月9日、国民党中央執行委員会上海ビューローに、自己の代表を選出する決議を中共中央委員会は採択した。

中共及び、廖仲愷のような国民党左派指導者の積極的な参加によって、国民党は労働者、農民、都市小ブルジョアジー、民族ブルジョアジーの連合の党になり、また国民党員数も著しく増大した。

大会の準備、党改組に対する予備的な方策、これら全てが孫文の党の眠っていた力を呼び起した。政治活動が活発に行われ、毎日、新しい代議員が到着していた広州では特に、それが著しかった。

だが同時に、大会の準備に際して、数多くの誤まったことが行われた。例えば、中央執行委員会は次のような決議を下した。大会の代議員は、たとえ支部の議長に任命されたり、選ばれたりしようと、大会後、地方組織に向いて活動せねばならない。だが、海外の国民党員や4つの省（雲南、広西、湖南、江西）からの移住者は広州で自分達の代議員を選出する権利を与えられるよう請願した。孫文はそれに同意した。それによって、中央執行委員会の決議が破られた。何故なら、華僑の多くは地方で、本気で活動する気持などまるでなかった。その後、同様の請願を福建人と安徽人が孫文に対して行った。拒否されたのは安徽人だけであった。

広州には非常に多くの湖南人が住んでいたが、彼等の間では意見が対立していた。政治家達は票の買収をした。これら全てが多くの抗議、誤解、行違を呼び起した。

孫文が強く主張したことは、国民党の宣言及び綱領作成準備委員会がそれを文書にする際、政府の全国的性格を必ず盛り込む、ということであった。問題は列強外交団が孫文の政府を地方的なものと考え、それが中国の全国的政府であると認めることを頑強に拒絶したことであった。

執拗な闘いが国民党の綱領をめぐる行われた。共産党及び国民党左派に対立していたのは国民党右派で、古い型の民族解放闘争の支持者であり、対立者との原理的な対立をばかすために、あらゆる手段をこらした。共産党の提案は次のようなプランに基づいて作成された。

1. 1911年から現在に到る国民革命の敗北の原因を解明しながら過去の経験を分析すること。(党の指導、大衆の支持を期待する政治綱領、党の規律、これらの欠如、等々)

2. いくつかのグループ、党派、それぞれの有力者達(憲政派、連邦主義者、等)によって提出された種々の全く役に立たない草案を批判すること。外国人などの監督の下での《実務政府》の樹立に関する提案を批判すること。

3. 国家権力の獲得を目標としている政党としての国民党が今後、そのためにどのような方策を選ぼうとしているのかを具体的に示すこと。

中共中央委員会は次のように言明した。《国民党はどのような原則に基づいて未来の政府を創設しようとしているか、を明確に述べなければならない。現時点では、国民党の綱領をつくることはできない。何故なら、党の綱領というのは機械的に作成されるものではなく、イデオロギー闘争と党活動の結果であるからである。綱領の草案は次の大会に提出できるであろう。今の時点で綱領を作成できないとしても、少なくとも、一全大会までに国民党の基本的原則—民族主義、民主主義、社会主義—を明確にさせておくべきである。同時に、国民党はその綱領に賛同する全ての政治グループと進んで統一戦線を組むための最小の綱領を、今すぐ採択しなければならない。換言すれば、現時点で最小の綱領を公式化しなければならない。

一全大会はこれら諸問題の解決が迫られていた。すでに、中央執行委員会上海ビューロー第一回会議に、綱領の第一次草案が提出された。その審議にまる一晚を要した。この討論に活発に参加したのは、廖仲愷、瞿秋白、汪精衛及び胡漢民であった。

その後、広州で《四人委員会》(廖仲愷、Бородин、胡

漢民、汪精衛)が綱領の諸問題をめぐって、15時間激論をたたかわした。国民党の宣言の本文を作成する際、汪精衛は執拗に《農民、労働者大衆》という用語の代わりに、より曖昧な概念—《大衆》《人民》等を用いようとした。彼のたつての要求によって宣言文中に次の文が書き込まれた：《中国の労働者は勤勉なことで全世界に知られている……》彼の意見では、それ故に、彼等は褒賞として自己の物質的情況を改善するに値するものである。

宣言の草案の中に、中国革命の敗北の諸原因が述べられ、且つ、《三民主義》の新しい解釈がなされた。民族主義の原理は次のようなことを意味している。社会の全階級にとっては一帝国主義との闘い；ブルジョアジー及び労働者にとっては一国民経済の発展、その上労働者にとっては一搾取からの解放；少数民族にとっては一彼等が皆自決権を持ち得る中華民国の建国。

土地を持たない、またわずかしか持たない農民と労働者の利害は全国どこでも共通している。従って、まさにこれらの階級こそ主要な革命力である、と宣言には明確に述べられた。国民党はこれら労働階級の経済的要求を支持する、と約束し、一方、彼等に対しては国民党の革命的綱領を支持するよう訴えた。革命の原動力をこのように明確に定義したことが新しい綱領の最も大きな成果であった。この主張を宣言の草案に入れることに反対した主要な人物は汪精衛であった。彼は革命に際し、農民及び労働者に対して、国民党が権力の座に着いた後、褒賞として単に一碗の米を恵まれることになる忠実な同盟者というだけの役割を割り当てようと、色々手を尽した。

民生の原理はそれを実行しようとしている企業の国有化、農地改革の実行、及び労働立法の導入、に帰着した。

この点が議論された際、委員会内部で激しい対立が生じた。宣言の草案には、国民党が権力の座に着いて国家を創ったならば、国家は土地を持たない農民や小作人に土地を与えねばならない、と書かれた。しかし、草案の作成者は一体、どこからその土地を国家は持って来るのか、については一言も述べていない。委員会の会議の席上、Бородинは孫文の出席のもとで次のように発言した。大土地所有者及び、農業に従事せず商売をやったり、官僚になったりして、金銭や物納の小作料を農民から巻き上げている土地所有者から土地のストックを創り上げることを彼は提案した。彼が主張したのは、国家が灌漑用水網の建設、新しい土地の開拓

等に関して、農民を援助しなければならぬ、ということであった。これらの方策がたとえ国民党の一部の人々にとって不満であったとしても、それは大いにあり得ることであるが、それらは党の最良の人々に喜んで受け入れられ、大衆に対するアジティションとプロパガンダの基礎となるであろう、とБородинは述べた。

国民党左派の人々は当時、西欧民主主義諸国及びそれらの中国革命に対する立場に関して幻想をいだいていた。

国民党員は最初、綱領の理念は《先進的民主国家から借り、それにただ2,3の中国固有なものを加えるにすぎないものである、と言明した。国民党員の意見によると、国民党は自己の革命闘争に於いて、国内に同盟者を求めるだけでなく、国外にも友人を求めている。Бородинは率直に尋ねた。《海外の同盟者とは一体、誰なのか。どんな民族、どんな国家と諸君は手を取りあって進もうとしているのか。ところで、もしその相手が、例えば、英国としよう。その場合、誰と共に出発するのか：Curzon卿か、Lloyd Georgeか、Ramsay MacDonaldか、それとも共産黨員か。彼等は全て国を代表する人物である。彼等の中で誰が真のデモクラシーを体現しているのか。》

1月15日、委員会の会議でБородинは再び質問している：《諸君はどの民族と共に進もうとしているのか。諸君は敵対的な帝国主義列強に包囲されているので革命ロシアと統一戦線を組むことができない、と言っている。そこで、諸君は極めて曖昧なことば《国家と民族》の陰に隠れようとしている。だが、諸君が帝国主義と闘おうとしていることを知るには国民党の宣言を読むだけで充分である。民族と国家は抑圧者と被抑圧者に分かれている。そのいずれと共に諸君は手を取りあって進むつもりなのか。》

委員会が採択したのは次の声明文であった：《民族—革命運動の基礎を自国の広範な人民大衆の支持に求めると同時に、国民党は帝国主義及び、中国に於けるその勢力に抵抗して、抑圧されている他の国々の民族—革命運動や我々の党と共通の目的—植民地、半植民地国家の解放を求める闘争—を持っている世界革命運動と共に共同戦線をつくり上げていくことが必要だ、と考えている。》孫文はこのような声明文は時宜を得ていない、と考えた。彼の考えでは、英国はインドに於ける自国の利害に直接に打撃を与える国民党の綱領の中のこの論点を決して認めないであろうし、フランスは《その政策には急進的な要素があるとしても》安南

に於ける自国の支配権に向けられているとして、この論点をめぐって国民党に挑戦するであろう。孫文の意見によると、この論点の意味は国民党が朝鮮、印度、安南等の人民に援助を与えねばならない、という点にある。しかし、実際には彼等の状況は我々よりもずっと良い：朝鮮人、印度人、安南人の場合、主人は1人である。——これは中国をずたずたに裂いている多くの主人がいる我々の場合よりもむしろ良い。中国の国家的統一がまだ実現せず、中国に居る帝国主義者に対する反撃の力も蓄えていない状態では、英国の労働運動や、フランスの社会主義者及び急進主義者の不確実な支持のみを当にした声明文を出すべきではない。孫文は自己の意見を次のように論証した：関税問題で争っている時、仮に、香港の総督が英国外務省に決定的な手段をとらせないようにさせ、広州の英国領事を召還することができたとしても、国民党のこの種の声明文はこれを全てぶち壊してしまうであろう。

孫文は言った：

《無論、英国の総督は私が香港でストライキをもう一度呼びかける、と脅しただけで、このような行動をとったのである。事実、すでに一度ストライキが香港を麻痺させたことがあった。私の脅しは香港の労働者の間に、再び運動を引き起こすことができるという確信に基づいてなされたものではない、と言わざるを得ない。同時に、私は個人的には、全ての被圧迫諸国家の民族革命運動の統一戦線という立場に完全に立っており、また、これについては一再ならず発言してきた。ところで、私はこのような気持の手紙を日本に出した。》

孫文の立場は彼自身によって、最終的に次のように定義された：《被圧迫諸国家の民族—革命運動の統一戦線には心から賛同しているが、それにも拘らず、国民党の新しい綱領にこの種の声明を入れることは今のところ、不適切であると思っている。そのような声明文が受け入れられる時が来たら、私は無条件で支持する。》

よく知られているように、孫文はソビエトロシアと同盟を結ぶことが必要だ、という結論に以前からすでに達していた。そして、この政治方針を国民党一全大会で宣言した。

1924年1月18日、共産党フラクションの会議で、国民党の宣言草案が基本的に承認された。土地問題及び少数民族に関してのみ、修正が加えられた。

1924年1月20日、午前、広州に於いて孫文の議長の

もとに、国民党一全大会が開催された。この会議に約160人の代議員と東南アジア諸国の華僑が参加した。

第1日目の議事日程は次の通りであった。

1. 開会式
2. 孫文の開会の辞
3. 議長団の選出
4. 中国の状況及び国民党改組に関する孫文の報告
5. 国民党宣言
6. 宣言作成委員会の選出
7. 政府の樹立

開会式では、椅子から立上った代議員が国民党旗に3度、孫文に1度礼をした。それから、オーケストラが国歌を演奏した。

代議員達が自分の席から祝辞を述べ、広州の国民党の組織の代表が歓迎の挨拶を述べた後、孫文が大会に次のような祝辞を述べた。

《国民党は祖国を救うよう求められている。一と彼は語った。一政府を創ったり、また必要な場合にはそれを更迭でき、革命の原理を実現できる強力な組織を創ってこそ、国民党は自己の課題を果すことができるであろう。中国に於ける革命は完了していない。革命の課題が果されるまでは、個々人や党派の意志にはかわりなく革命は続くであろう。国民党は積極的に革命に参加している。だが、今まで、その党员の中に厳しい規律も立派な組織も無かった。極めて重要なことであるが、党の綱領は人民大衆の間に知られていなかった。今や、我々の目的に到達するための、より近い道が見出された。我々は全中国人民の共感を得ることができるであろう。現在により適合する原理に基づいて党を改組することで、我々は将来、中国政府を改組することができるようになろう。国民党が蒙った大きな損失は何か外的な原因による結果ではない：それは主として、自己の個人的な利益を満足させようとし、且つ党や社会の共通な目標や任務に注意を払わなかった国民党員が犯した誤ちの結果である。国民党の改組によって、党员は自己の個人的な利益を捨て、民族のためにそれを犠牲にするようになるに違いない。》

この演説を終えると、孫文は議長団を選出するよう、代議員に提案した。この提案は満場一致で採択された。孫文は直ちに、彼が指名した人物を読み上げた：汪精衛、胡漢民、謝持、林森、李大釗（共産党员、北京代議員）。

この時、大会が開かれている建物に広州の地区国民党組織の最初の一団がやって来た。彼等を出迎えるた

めに3人の代議員が選ばれた。

同日、午後2時、第二回の会議が行われた。孫文が基調報告をした。

報告の内容は次のようなものであった。第一革命の敗北の後、中国は破壊活動を理由に全ての人が国民党を非難できるような状況になってしまった。だが、中国の政治環境を変え、また人民の生活を改善しよう、という試みがなされた際にそれを取り巻いていた条件をこの際、忘れてはならない。国民党員は王政派や北京政府に騙された。南京の共和派政府は3カ月しかもたず、その後、袁世凱に権力が移った。勿論、この短期間に根本的な変革を行う可能性は無かった。そのような時に実行できた事柄をも袁世凱は無に帰してしまっ

た。革命の最中に、多くの清朝の高官が国民党に加わった。形の上では、彼等は自分達を国民党の思想の信奉者だと考えていたが、実際には、党の活動の邪魔をした。現在の困難な状況の責任を国民党に問うべきではない。党は全力をあげて成功を遂げようとしたが、内外両面の原因によってそれが果せなかった。第一革命の時に、人民は国民党を支持したが、現在、やゝもすると中国の現在の困難な状況に対して若干の人々が我々を非難する傾向がある。これは我々の党が自己の任務を果せなかったこと、またその責任が実に大きいことを意味している。

もし、我々が勝利のうちに革命を成就したソビエトロシアを見て、共産党の組織(ポリシェビキ)と我々のものを比較するならば、我々の弱点と誤まりはすぐに明確になるであろう。我々が勝利を収めようとして決意したならば、党を改組しなければならないことは誰の目にも明らかであろう。ソビエトロシアは我々の手本として役立つに違いない。もし我々が現在の条件の下で、国民党をソビエトロシアの執権党にならって改組できるならば、中国の状況は根本的に変わるであろう。自己の個人的な利益を全て捨て、あらゆる災難に断固として耐え、自己を1つの目的—中国を救うこと—toに捧げるために、我々は規律ある党を創らねばならず、また同志的に活動せねばならない。

報告を終えて、孫文は中央執行委員会の作成した国民党の綱領—大会宣言、国民党の《三民主義》及び3つの政策を書記に読み上げるよう求めた。

それから廖仲愷が国民党の綱領の草案を個々にわたって検討したり、修正や必要な追加をするための、9人から成る審査会の委員を指名するように孫文に依頼

することを提案した。

新綱領に対しては誰も反対しなかったが、思いもかけず、委員の構成及び数をめぐって激烈な議論が行われた。孫文は候補者のリストを翌日提出すると約束した。大会はこれを直ちに提出するよう求めた。孫文は議長のを胡漢民に譲り、自分は廖仲愷、汪精衛、その他の人々と審査会の候補者の人選に当たった。その間に、林森が政府の樹立の問題に関して発言した。

彼の報告は活発な論争を引き起こした。政府の樹立に反対した者は無く、議論は専ら、その樹立の時機の妥当さについてなされた。ある者はこの問題を延期するよう提案し、またある者は先ず、国民党を改組し、その後、政府等の樹立に着手するよう提案した。

孫文は再び長い演説を行った。彼は中国革命の歴史を思い起させ、国民党が当時果たした役割について述べ、また共和派政府の樹立の試みについても語った。

《革命時には—孫文は語った。—公明正大に活動しなければならない。また革命は必ず指導的政治機関を持たねばならない。全世界は我々がどのような政府を求めて闘っているかを知らねばならない。政治活動の基礎に国民党の原理が置かれるであろう。我々は大衆の中に最も広範なプロパガンダを展開しよう。そうすれば、彼等自ら軍閥の北京政府に反対して、新政府樹立を要求するようになるであろう。》

ソビエトロシアを見なさい。ロシア共産党は革命の原理を実現し、世界で最も民主的な憲法を創った。ロシアの若い共和国は敵に囲まれていた。しかし、共産党は Колчак、Деникин の反革命政府などに抵抗して、革命の政府を創り上げ、それを中心に全人民が団結した。恐らく、多くの人々は私があまりにもしばしばソビエトロシアのことを好意的に述べており、ソビエトを手本にしたくない人々に反対していると思うであろう。多分、彼等は私が国民党の道を捨て、《ソビエト化》の道を歩もうとしている、と思うであろう。我々は危険な時期に生きている。そこで我々は歴史から教訓を学ばねばならない。ロシア革命の結果は誰の目にも明らかであり、もし、我々が強力で、組織力のある、規律ある党を創りたいなら、ロシア革命の先例に倣わなければならない。》

大会二日目の開会の時、汪精衛は孫文がさし迫った事情で出席できない、と伝えた。林森が議長に選ばれた。

当日、大会では譚平山による中央執行委員会の活動報告、及び地方組織の報告が行われた。次いで国民党

の宣言草案が3つの段落に分けて読み上げられた。会場に現われた孫文が次のような演説をした。

《審査会の作業についての報告が終った。だが、投票に入る前に私はこの問題には更に多くの説明が必要だ、と率直に言いたい。宣言の中には、極めて真剣に考える必要のある我々の党の原理が書かれている。先ず第一に、それらに対する、一致した賛同を表明することが必要である。そのことがあってはじめて、宣言全体を討議することができる。古い黨員の中にも、新しい黨員の中にも我々のこの原理を理解していない者が数多くいることを私は知っている。もし、彼等が今もそれを理解できないならば、将来、内紛は避けられないであろう。それを避けるために、私はもっと詳しくこの問題を論じよう。

2年前、多くの北京の学生が人民の福祉の原理(社会主義)を理解せず、共産主義の原理に熱中し、共産主義の宣伝をやり始めた。彼等は共産主義が新しい教義であって、国民党の原理は時代遅れのものだと思っていた。一方、古い世代の国民党員の多くは共産主義を極めて危険な教義だと考え、それと闘った。学生達の側もこのような国民党と協力するのを拒絶している。国民党の若い黨員達は初めは、この新奇な教義に夢中になり、ロシア革命や社会主義の最も新しいタイプとしての共産主義に共感した。彼等は共産主義を学ぼうと、ロシアに行くことさえした。だがロシアの同志達は彼等に、中国に於いては先ず、国民革命、即ち、国家の民族的自由の実現のために闘うこと、また共産主義者は協力して活動することが必要だ、と説いた。これらの論拠の正当性を信じて若い同志達は国民党に対する態度を変え、協力のために我が党に加入することに決めた。しかし、年上の我が黨員は国民党に入ってきた共産黨員が党を内部から破壊するのではないかと今でも恐れている。驚いたことには、これらの同志は人民の福祉の原理を全く理解しておらず、またそれを理解する気も無いようである。

最近、私は東南アジア諸国の国民党員から電報を何通か受取った。その中で彼らは我々の綱領が共産主義的なものになったのかどうか問うている。もしそうであるなら、国民党を脱退すると誓っている。本日、是非大会に出席しなければならない、という気に私になったのは、まさにこれらの電報の所為である。何故、彼等は我々にこのような電報を送ってきたか。何故なら、彼等は海外で暮し、外国の新聞を読み、外国の宣伝に騙されているのである。植民地に住んでいる外国

人はソビエトロシアに強い敵意を抱いている。ロシアの例が自分達に壊滅的打撃を与えることを恐れ、ロシアに反対して最も激しい宣伝を行っている。植民地にいる我々の同胞はソビエトロシアに対する敵意に満ちている。彼等は悪意に満ちたこの宣伝の雰囲気の中にいるので、全てに変化が生じていることを理解していない。それ故に、我々が共産主義の原理に基づいて国民党を改組することは死を意味する、と彼等は考えている。6年前、ソビエトロシアの状況は非常に困難なものであったが、今では英国、フランス、日本の議会はソビエトロシアを承認しようとしている。ソビエト政府が人喰い虎でないことは明らかである。今や、全ての国がソビエトロシアを恐れているわけではないのに、一体何故、我々がそれを恐れなければならないのか。もし、我々の党が共産主義者の原理を受け入れたとしたら、それはそれで悪くないかもしれないが、やはり国民党の原理の方がロシア共産主義の原理よりも中国の実情に合っている。我々の原理には社会主義、集産主義、共産主義の思想がある。国民党の年上の黨員達はロシア共産主義の諸原理を全く恐れることはない。

私は国民党員が我々の原理と共産主義の原理との間にそれほど大きな違いが無いことを知り、無意味な恐怖心に惑わされず、党と祖国のためにねばり強く活動することを期待する。》

拍手喝采を受けて演説を終え、孫文は時間が遅いため、投票は明時に延期しよう、と述べて会を閉じた。

大会の三日目の議題に次の問題が出された：1. 党規約(報告者、Sun Fo)；規約作成委員の選出；2. 党規律(報告者、胡漢民)；3. 軍事情勢と関税問題(報告者、汪精衛)

これらの諸問題について活発な審議がなされなかった。

☆ ☆ ☆

第四日、遅れて開会された。汪精衛は孫文が出席できないことを伝えた。胡漢民が議長を務めた。

大会では宣伝と出版に関する報告がなされた。報告が終ろうとする時、ホールに孫文が現われた。明らかに彼は何かを心配しており、代議員の挨拶にもほとんど答えなかった。議長席に着き、孫文は報告が終ると、宣伝及び出版組織の計画作成のための委員会を選出するよう提案した。この提案をもって午前の会議は終了した。

1月23日午後、国民党宣言草案が承認を得るため大会に提出されることになっていたが、孫文は右派の汪

力を受けてそれを引っこめ、国民政府のために彼が書いた綱領をそれに代えよう、と心に決めた。この綱領は中国の現在の政治情勢には全く触れておらず、また闘争に関していかなる具体的な方策も指示していない。更にその中には明らかにユートピア思想が少なからず存在している。国民党大会中のこの危機について Borodin の興味あるメモが残っている。

《1月23日、孫文は自分の所へ来るように、と私に急の使いを寄こした。彼は大会書記局で私を迎えた。彼の最初の質問は次のようなものであった。国民党宣言を引っこめて、大会で樹立されることになっている国民政府のために自分が書いた綱領を宣言の代りに提出する方が良くはないだろうか。右派もこの綱領に反対しないであろう。それどころか、国民党宣言の草案の中にある、厄介な諸問題を免れる最善の手段であるとして、彼等はそれを歓迎するであろう。綱領には人民の4つの主要な要求：食、衣、住及び輸送機関を満足させようとする政府の意図が宣言されていた。この綱領には、政府が人民の利益を守る、とあるが、一体この《人民》とは誰のことか。どんな手段でこれら全てのことが達成できるのか。このユートピアを実現するためには、中国でどんな条件が創り出されねばならないか、について一言も触れていない。それ故、この綱領は中国国内に於いても、海外に於いても、そこに住む小ブルジョア国民党員に勿論喜んで受け入れられるであろう。海外ではブルジョア化した国民党員は党が帝国主義に反対する意見を述べることを、またそれによって東南アジアから自分達の追放を招くことを恐れて、現在生活している。

次の問題が生じて来る：民族解放闘争を少なくとも妨害しないために、彼等は何故、国民党からあっさり出て行かないのか。そんなことはできない。20年間も所属していた国民党から、どうして出て行くことができようか、と彼等は言っている。これは《先祖崇拜》の破壊のようなものであろう。実際には、この《先祖崇拜》の口実の下にある種の欲得ずくの目的が隠されていることがある。つまり、あらゆる種類の古狸、政治家が国民党の名に隠れて《独立を求める闘争》のための多額の資金を、海外に住む中国人から集めているということである。カナダ一國で、1万人の中国人一主として労働者一がおり、彼等は国民党を支持している。実際に中国の革命闘争の需要に割り当てられたのはこの資金のうちのごくわずかであった。国民党の収入はことごとく古狸どものポケットに入ってしまう。何らの

危険もおかさず海外の中国人から金を捲き上げることが出来る間は、即ち国民党が帝国主義者にとって少しも脅威とならない間は（従って、帝国主義者が国民党に全く反対しない）、これらの古狸達は極めて満足の態である。しかし、国民党がその綱領に、中国の民族独立のための闘争を行おうとしている、と明確に述べたその日から、海外の国民党内の冒険主義者達に大金を容易に手に入れるチャンスは必然的に無くなるだろう。従って、大会にやって来た海外の国民党員達、それは一般の党员ではなく、その指導者、つまり官僚、そのほか商人、地主達が上記の政府綱領にとびついた理由は明白である。彼等は孫文が宣言草案を捨て、代わりにこの綱領を採用する気にならせるために、あらゆる手を尽した。彼等は毎晩会合を持ち、もし宣言を採択するなら破滅的な結果を生ずるだろう、と言って孫文を脅そうとして、裏口から彼の所へ駆け込んだ。彼等の友人達は国外から孫文宛に、国民党がすでにポリシェビキ等の手に落ちてしまったのではないか、という懸念を表わす電報を送ってきた。彼等は分裂を恐れた国民党左派の多くの人の間に、混乱を引き起すことにさえ成功した。この混乱によって、宣言の重要点、即ち、大土地所有者等の土地からでき上っている土地のストックについて述べた個所を取り消すことになってしまった。これは形式上の統一を考えて右派に譲歩したものであった。土地問題の成功に気を良くした右派は国民党宣言を葬り去るために、熱心に《活動》した。

孫文にも《先祖崇拜》という古く、且つ有害極まる方針、換言すれば、20年間に渡って党员であり、集会のたびに彼の肖像画に敬礼した人々との友情を保ち、衝突を避けようとして、宣言草案を引き下げ、政府綱領を提案するのではないか、という懸念が本当になった。

まさに危機であった。宣言草案を引っこめるということは大会がまるで無用のものになり、以前と同様に中味の全くない美辞麗句が支配することを意味するであろう。孫文が私に出した質問に対し、勿論、私は宣言を綱領と取りかえることは容認できないものと考え、と答えた。何によらず、孫文に考えを変えさせることは一般的に言って、難しいことだ。この綱領で彼は民族一革命運動の具体的な課題から出発するのではなく、100年後にこの運動がもたらすであろう展望から出発している。私は孫文に語った。綱領は更にもっと推敲する必要がある。またそれを発表することも必

要であろう。だが、大会宣言と決して混同すべきではない。宣言では党の差し迫った課題や、党がその政治的原理をどう考えているか、が多少とも初めて明らかにされている。政府の綱領はそれ自体、何の効用ももたらさないにしても、ともかくそれによって損害を受けることはないであろう、と私は思った。もし、国民党宣言が大会で採択されるなら、まさにそれは真に革命的な国民党が率いる中国の民革命運動の発展の基礎となるであろう。ユートピア的な政府綱領な実際の意義を持たないのに反し、他方、宣言の方は中国の死活問題に答える文書であり、それは運動の指導的な、且つ決定的な文書となるであろう。

いろいろ論拠をあげて孫文と長い間話し合った後、孫文は政府の綱領も印刷するという条件で、宣言の方を支持することに決めた。

孫文がこの決定を下す助けとなったのは我々の会談のテーマでもあった、もう一つの重要な事情であった。それは新聞に、孫文とアメリカ大使 Schurman との会談が発表されたことであった。孫文との3時間の会談を終えた後、大使が発表したのは他の事には触れずアメリカの中国に対する干渉に役立つところだけであった。孫文はたとえ列強全てと戦わざるを得なくなるとしても、力づくで税関を占領するつもりである、と Schurman に特に言明した。Schurman は広東政府が戦争の費用としてではなく、航行と水路の改善にのみ関税の余剰金を使うなら、それを広東政府に渡す問題を友好的に解決するための援助をする、と約束した。このことには孫文は同意したが、Schurman、つまり列強全体が中国に対して不公平であると言って非難した。《彼等は当然我々に属するものを引渡そうとせず、私や私の政府と戦っている。それなのに軍閥の軍隊に対してはワシントン会議の決定に従って干渉し、彼等の武装解除をすどころか、彼等を支持している。》秩序を維持するための警察のみを残し、全面軍縮されるなら、現状を審議するための円卓会議に喜んで参加する、と孫文は Schurman に語った。Schurman 大使はあたかも孫文が軍閥の武装解除のためには外国の中国に対する内政干渉に賛成したかのような印象を与える会談の中の一部のみを発表した。

— どう思いますか— と孫文は尋ねた。私の名前を出されたそのような声明文はどのような印象を引き起すだろうか。事態を取捨するにはどうすべきだろうか。

これに対し私は孫文が沈黙を守ると、今や外国人の干渉等をうたった彼の名前入りの声明文を裏づけるこ

とを意味することになり、従って中国の愛国者は誰一人彼を許さないだろう、と答えた。たとえ干渉の意味が帝国主義者、つまり中国の敵による軍閥の武装解除だとしても、これは人民に対する裏切りである。この声明文が Schurman との会談の意味を歪めたものであるなら、私はそうだと確信しているが、それならば直ちに反論しなければならない。反論の一つの方法は大会で演説をし、帝国主義者の中国内政干渉全てに対しての闘争、彼等の持っている全ての特権に対する闘争、武力により押しつけられた不平等条約の廃止等について、明確に述べることである。そうすれば、外国人に対する彼の協調主義、中国に於ける外国の干渉の支持に関するあらゆる臆測を孫文が晴らす絶好の機会となろう。そのような演説は世界中に掲載されるであろう。中国に於ける帝国主義者の強請のために孫文の名前を利用しようとする Schurman の意図は不名誉で、散々な失敗を喫するであろう。

私は何度も孫文に質問した：中国人民がアメリカ、イギリス、日本から何らかの援助を得られるという幻想を、彼が今後どのくらいの間いただいているのか。彼はあまりにも永く支持を期待しすぎていたのではないか。そして今や、幻想と失敗に満ちた過去を総括し、新しい道に移る時ではないか。

私は孫文に言った。あなたは一方の圧迫された中国や他の被圧迫諸国と、他方の帝国主義世界との間に協調を実現させようとするのか、それとも正しいものの権利を守るために闘おうとするのか、という問題の選択に迫られている。もし仮に、あなたと私が現在ではなく、世界大戦、ロシア革命の勝利の前に話し合いをしているとするなら、あなたは被圧迫諸国の権利を守る闘いを見て、海外のどこかで見捨てられ、帝国主義との合戦をただ夢見ている小グループの理想主義者の闘いだと考えることができるであろう。現在問題になっているのは世界規模の革命運動である。あなたを支持しているのは1億5千万のソ連人であり、自分の国が半植民地の状態になったドイツ人民である。またあなたを支持しているのはトルコで、その国はたった今独立を達成したばかりで、もし帝国主義がトルコ以外の土地で勝利をおさめた場合、破滅を逃れられる保証は何もない。ベルシャ、インド、その他のアジアの国々の人民が被圧迫諸民族の大義のために闘う戦士である、とあなたを思い始めるであろう。要するに、あなたは次のいずれを選択するかという問題に迫られている：全世界の民族—革命運動と共に歩み始めるの

か、それとも、これまでの様に、中国に対して公正さを欠いていることを Schurman に納得させ、彼、あるいはアメリカに似た他の国々の代表達が中国の内政に干渉することさえ期待しようとするのか。

孫文は頷き、そして賛同を表わす身振りをした。我々の会談が終ると、彼は私と握手をし、下に降りて議長席に着いた。彼は国民党の宣言委員会の報告、及び活発な討議を見事に処理した。大会は宣言案を承認した。先ず孫文が最初に賛成投票した。

Бородин の上記のメモは国民党宣言を守る、激烈な闘いの最中に書かれたものであった。それ故、所々に議論の余地がある。孫文の行為をめぐって、ある程度主観的な評価がなされている。しかし、それにも拘らずこのメモは当時の貴重な文書で、孫文の革命闘争に対する誠実な態度がうかがわれる。

孫文は自己の全生涯を中国の改造に捧げ、実際に全力を尽して生涯の最後の日まで祖国に奉仕した。国民党宣言を守る闘いで、孫文は時々動揺したことを我々は知っている。しかし、それは正しい決定を見出したり、国民党の新しい綱領を生み出す妨げとはならなかった。以後、彼はこの綱領から逸脱することはなかった。宣言草案の審議に当てられた1月23日の国民党大会に戻ろう。報告したのは胡漢民と戴季陶であった。

討論で最初に発言したのは廖仲愷であった：《私はこの宣言草案は明確であり、解りやすいと思う—と彼は言った。これは入念に、且つ極めて慎重に検討されてでき上ったものである。我々の新しい政治綱領はその実現をめざして我々が闘うための目標を示している。その中には我々の原理が述べられている。他の党とは異り国民党は党大会で作成された綱領を、今後持つことになろう。綱領は何が我々にできるか、現在の条件の下で何を我々が達成できるかを示している。我々の実現できないことは一切、その中にもらなかった。我々の綱領は全中国人民の希望を表わしている。そして皆で努力し、我々がこれを完全に実現することを私は期待している。》

廖仲愷の最後の言葉は嵐のような拍手喝采を引き起した。

代議員の中に草案をもう一度、委員会にさし戻すよう要求した者があったが、賛同者はいなかった。その他の提案はいくつかの項目の変更すぎなかった。

修正案が論議された後、孫文は大会の出席者に言った：

この宣言に賛同できる人は挙手を願います！

国民党宣言は圧倒的多数で採択された。ホールには嵐のような拍手が鳴り響いた。

それから孫文は大会に演説をした。その主な内容は次の通りである：

委員会が最終的に提出した宣言は大会で一致して採択された。今後は大会の代議員だけでなく、国民党員全員がこの宣言に従って、党の革命の諸目的を達成するために活動しなければならない。

国民党宣言が出されたことは単に我々の国だけでなく、全ての被圧迫人民の民族—革命運動にとって極めて大きな事件である。これは我々が党の歴史の新しい段階に入りつつあること、また我々が政治闘争に於いて新しい方法を適用しなければならないことを意味している。

今まで、党は課せられた任務を果すに十分な団結と根気を持っていなかった。今後、我々は勝利へ向う新たな道を進もう。

事実、我々は満州王朝を打倒した。しかし、その後すぐに反動勢力と妥協し、この革命をつぶしてしまった。我々は武装して反革命に対して立上ったが、この戦いでは《革命》という言葉さえも忘れてしまっていた。広東や四川で起った、暫定憲法を求める闘争の中には革命を暗示するようなものはなかった。曹錕、呉佩孚のような反動派さえも自分は暫定憲法の支持者である、と宣言することができた。

我々は度々妥協して、民族革命運動の敵に譲歩した。人民の自由、独立、幸福が成立するために欠くことのできない革命の諸原理のための困難な闘争の中で、もし党が絶えず譲歩し、革命の敵と妥協するならば、またもし、党に十分な団結がないならば、党は決して勝利をおさめることはできないであろう。

代議員は全て国民党宣言を綿密に研究し、それを理解し、人民大衆にできるだけ広く伝えなければならない。人民は我々の綱領を知って、祖国のための闘争で我々を援助しなければならない。だが、第一に、宣言は敵に対してこれ以上の妥協も譲歩もしないことを国民党員全てに教えるに違いない。党のスローガンは革命の諸目的を達成する際の団結と根気である。更に内容を見ていくと、宣言は国内の軍閥や外国の帝国主義に対して我々が闘争を開始していることを意味している。この目的のために我々は全ての被圧迫人民と統一戦線を強めている。我々は中国人民の解放と全ての民族の権利の擁護のために闘っている。

孫文の演説は代議員の拍手喝采を受けた。

大会で採択された国民党宣言の第一部には中国の政治及び経済の状況が述べられている：第二部は国民党の新しい原理、第三部は国民党の政治綱領であった。

《半封建的、国際帝国主義に従属している中国が直面している任務は一と宣言の中に述べられている一孫文自身が下した新しい解釈の《三民主義》に基づく反帝国主義、反封建革命によって国を統一し、民主国家にすることである。

民族の原理は帝国主義からの解放と同時に中国内の全ての民族間の完全な平等を求める闘争を示している。《広汎な大衆のための民族解放を求める闘争の課題は全て帝国主義に反対する闘争に帰着する。このために国民党はできる限り人民大衆の組織を支持し、かくして民族のエネルギーを解放しなければならぬ。中国の民衆との深いつながりこそ、事実上の民族の独立の保証である。

民主主義の原理は人民に広汎な政治的権利を与えることである。《国民党の民主主義は一宣言の中に述べられている一《人間に個有の権利》の一般的観点からではなく、現時点の中国の革命的要求の観点から考えられている。権力は共和国の全市民に与えられねばならないが、権力を革命の敵に与えてはならない。もっと正確に言えば、全ての権利、全ての自由を広く享受できる人、あるいは団体は帝国主義と実際に闘っている者達であって、いかなる場合でも、外国の帝国主義者や彼等の手先達を助けている人々や団体、あるいは中国に居る彼らの手先に広げてはならない。そこで、民主主義の原理もまた、中国人民の反帝国主義、反封建の闘争を意味している。人民の福祉の原理は農民に対する土地の分配を前提としている。《中国は一宣言は述べている一農業国家で、そこで農民階級が他のどの階級よりも苦しんでいる以上、国民党は土地を持たない農民、小作人が国家から土地及び経営に必要な器具を受けとることを要求する。

宣言は《国家が失業者に援助を与え、労働者の状況を改善するために、労働立法を行う》ことを求めた。

資本の制限の問題を提起して、宣言は中国人や外国人の所有する、産業のある部門全体を独占したり、私的経営者が管理するにはあまりにも巨大な企業を国家に引き渡すことを計画した。(例えば銀行、鉄道、水路等)

外交政策の最低綱領として宣言は不平等条約の解消と相互の主権を完全に尊重することを基礎にして、外国との新条約の締結を要望した。国内政策では宣言は

中央と省との間の権力を厳密に分けること、普通選挙権の導入：人民に言論、集会、結社、印刷、宗教、住居の自由を与えること；農民に土地を分配すること；労働組合を再建することを要求した。

宣言は改組された国民党の綱領に新しい内容を吹き込み、その手に革命の旗を持たせた。

新しい《三民主義》は孫文の3つの基本的政治方針を含んでいた：ロシアとの同盟、中国共産党との同盟及び農民や労働者に対する支持。

大会の第五日目の会議の冒頭に、北京にいるソビエト大使 Л.М. Карахан の祝電が読まれた。大きな拍手がわき起った。大会はソビエトの代表に返電を送る決議を採択した。

それから、Sun Fo が英国で保守党政府が倒れ、Ramsay MacDonald 労働党党首が首相に任命された、というニュースを知らせた。彼はソビエトロシアを承認することを提案していたし、国民党をも承認するであろうと思われた人であった。

満場一致で MacDonald に祝電を送ることが決議された。

☆ ☆ ☆

Николай Терешатов と私は 1924 年 1 月 25 日 広州に到着した。その日、国民党大会でレーニンの死という悲しい知らせが伝えられた。市は喪中にあった。偉大なレーニンに極めて深い尊敬の念をいただいていた孫文は世界革命の指導者の追悼のための演説を議会でやった。その時、この大会に来ていたロシア電報通信社の特派員のレポートによると：《国民党規約の報告がなされている時《静粛に》という号令が聞えた。2、3秒後、ホールに孫文、同志 Бородин、外務大臣伍朝樞が入って来た。代議員全員がこの三人に歓迎の意を表した。孫文は演壇に上り、報告者の話を中止させ、レーニンの死を知らせる悲しい演説を参会者にした。彼の言葉は強烈な印象を与えた。参会者はそれを聞いてぞっとするような感を受けた。全員の視線が孫文と Бородин の方へ向けられた。ホールの中は静まりかえっていた。紙切一枚の音もなく、物音一つ聞えなかった。孫文はゆっくりと、ほとんどささやくように話した。そして彼は悲痛な思いにとらわれているようであった。》事実、大会で孫文がレーニンについて話した言葉は現在でもその深さと誠実さに感動させるものがある。《世界史の何世紀もの間に一と孫文は述べた一何千人もの指導者や学者が美しい言葉を口にした。しかし、それは決して実現されなかった。レーニン、あなたは例外

である。あなたは話したり、教えたりしただけではなく、自分の言葉を現実に変えた。あなたは新しい国を築いた。あなたは共同して闘う道を我々に示した。あなたは進んで行く道の途中で何千もの障害に出会った。私の道の上にも同じような障害がある。私はあなたが指し示した道を進みたい。そしてたとえ私の敵がそれを妨げようとも、私の人民はその道の故に私を歓迎してくれるだろう。あなたは死んでしまったけれども被圧迫人民の記憶の中に、偉大なあなたは何世紀も生き続けるであろう。》孫文の提案でレーニンの死に哀悼の意を表わす、ロシア共産党中央委員会及びソビエト政府宛の手紙を大会で採択した。

手紙の内容は次の通りであった。《新しいロシアの主要な建設者であるレーニンの業績は現時点で、我々の大会の意見や決議を鼓舞している。この大会の主要な任務は中国を統一し、民主政体の条件の下に中国人民が福祉を得ることができる全国組織に、党を変えることである。

国民党大会は3日間、喪に服し、次の会期を1月28日にのぼすことを決議した。3日間の喪の間、学生、兵士、一般住民が政治集会を持ち、レーニンや国民党宣言の内容について話し合いをした。

現在、ソビエトの人民はレーニンに対する孫文の態度について良く知っている。孫文の追悼演説はレーニンの持っていた全人類史的意義を確認する、歴史の中で最も興味あるものの一つである。レーニン主義の全世界の一歴史的意義に対する孫文の理解はその基礎を、ソ連の基本的に新しい対外政策の鋭い、正確な分析に置いていることを確認することが重要である。勿論、孫文はレーニンの著作については深くは知らなかったし、孫文主義に対するレーニンの分析についても恐らく、深くは知らなかったであろう。ともかく恐らく彼にとって、最も重要な情報源はБородинとの長い友好的な会談であったろう。しかし、ソビエト国家の成立当初の数年間の歴史的事実を知って、孫文は事態の進展のうちに根本的な、決定的なものを見分けることができた。

ヨーロッパ滞在中に彼は西欧社会主義の種々の流れを知ることができた。恐らくプチブルジュア革命家である彼にとって、右派の社会一民主派、種々の日和見主義者、改良主義者の教義がより近いものであったに違いない。だが孫文は真理を求める過程で、まさにソビエトロシアの経験、レーニン主義に助力を求めたものであった。

広州の国民党大会の時、激烈な議論が持ち上った。国民党員の中には共産党員が共産党の組織的、政治的自主性を保ちながら、国民党に加入することが正当であるかどうか、という疑問が相変わらず明確になっていない者がいた。孫文の3つの政治的決定に対して、概して反対意見を持った国民党右派は共産党員について、極めて馬鹿げた噂を広めた。

Трешатовと私がすぐに、この論争と討論の渦に巻きこまれたのはごく当然であった。我々は毎日、Бородинや中国の同志達と出会った。彼等は会議中のことや、大会の廊下で起ったことを全て我々に詳しく話してくれた。

大会第一日に孫文が代議員のために設けた宴会の席上、彼等の一人、茅租権が自分のスピーチの中で言った：《もし共産党員が我々の綱領を受け入れているならば、彼等は自分の党を出なければならぬ。》孫文は中国共産党員が何故、国民党に入党しているのか、について十分納得いく説明を彼にした。

1月24日、規約作成委員会で再び国民党内の共産党分子の問題が持ち上った。上海のある大学の教授である何世禎は国民党員が他の政党に加入することを禁ずる提案をした。多くの代議員はそのような提案に反対した。何世禎はそれを撤回せざるを得なかった。汪精衛はそれにも拘らず、この問題を大会の本会議に出すことを提案した。李大釗と個人的に話し合いをした時、彼は大会で徹底的にこの問題をはっきりさせる方がよい、またそのためには李大釗あるいは中共の指導者の誰か他の人がこれに答える必要がある、と言った。

1月25日、大会の共産党派の会議が開かれた。一つの問題が討議された：国民党内での共産党の活動の原理について公式に大会で発表すべきかどうか。

《我々の立場を率直に述べ李大釗はこの会議で言った一何故、また何のために我々が国民党に加入しているか、を説明する方がよい。若干の古い国民党員は我々が彼等の党へ加入したのは、彼等の持っているものを利用し、自分の目的を遂行し、彼等から一碗の米を取り上げ、彼等の地位を占めるためである、と考えている。

次の提案が採択された：主要な報告を討議する時に国民党内で共産党の活動の問題に触れること。《孫文の出席しているところでこれを行うのが望ましい》とБородинが勧めた。

《勿論、孫文が自分の意見を述べる必要がある。一と李大釗がБородинに同意した。一我々は孫文に

この問題について明確に見解を述べてもらいたい。我々は国民党の改組と民族一革命運動の発展を援助するため国民党に加入しているのである。我々は国民党から何も奪うつもりはない。もしその点に関して国民党側に何らかの疑いがあるなら、彼等ははっきりとそう言うべきである。孫文は我々が国民党に加入したいきさつ、我々が合作の際追求している目的についてよく知っている。》

孫文の出席のもとで、大会七日目にこの事に関して声明文を出すことが決められた。この声明文の作成のために李大釗をチーフとする、3人の委員会が選出された。

1月28日、大会で汪精衛が発言した。孫文がレーニンの死という悲報を持って来たため、汪精衛は前の会議で党規約に関する報告を終えることができなかったことを思い出させた。汪精衛は規約草案が中央執行委員会と大会で選ばれた委員会で、何度も審議されたことを付け加えることが今や必要である、と考えていた。規約に関する種々の提案や声明が検討された。

それから、フォンとか言う人が発言して、彼は規約の全ての項に賛成するが、国民党の内部に他の政党の代表者がいることに同意できない。それ故、国民党員は同時に他の政党に加入できない、という項目を規約の中に付け加えることを提案する、と言った。

ホールの中にざわめきが起こった。議長はそれを制してから共産党員の代議員である李大釗に発言を認めた。《私は同志諸君に若干の説明をする全権を与えられている。一と李大釗は自己の演説を静かに始めた。一我々中国共産党員は現在国民党に加入している。そしてこの事が一部の人々に驚異の感をいだかせている。国民党に加入する前に我々は度々孫文と話し合いをし、彼に我々が国民党と共に喜んで活動するしこの事は社会主義青年団の大部分の団員も同じである、と述べた。我々は率直かつ誠実に声明文を出した。中国が現在、極めて困難な状況下にある、という事から我々は出発している。封建軍閥と闘うためには強力な革命政党が必要である。一体、どのような党が自己の団結力によって、軍閥の力に対抗できるか。我々は次のような結論に達した。これを成しとげられるのは国民党だけである。確固とした原理、自己の歴史、現時点で、中国の全ての民族一革命勢力を団結させる旗印となり得る指導者を国民党は持っている。国民党の外で活動し、十分な組織を持たなければ、我々は革命の力を分散させ、敵を助けることになるだろう、と我々は

考えている。だが、国民党内で活動するなら、我々はあなた方の党のまわりに全革命勢力を団結させるに役立ち、我々の原理でもある孫文の原理の実現を共に達成できるであろう。この故にこそ、我々は自発的に国民党に加入したのである。いずれからの圧力も無く、諸君と共に軍閥と戦い、彼等から我々の弱り果てた国を解放しよう。

我々が国民党に加入した動機が理解できなかった同志諸君が今や、みんなわかってくれることを私は望んでいる。国民党は自己の規律と規約を持っている。そこでもし、党に入って来た人の中に、この規則に従おうとしない人が居たなら、党はそのような人を自分達の隊伍から追放する権利を持っている。》

李大釗の演説に続いて、国民党の天津代表が発言し、規約の問題は解決したと思う。しかし、他の政党の党員に関して提案された項目を付加することが必要だと思う。なぜなら、今日はここ、明日はあそこで活動する党員を想像することができない、と声高に述べた。

多くの代議員は語った：共産党員が孫文の原理を認めており、国民党の規約と規律に従っている、と孫文が判断するなら、彼等が国民党に加入することを恐れる必要はない。

当時《左派》を装っていた汪精衛もまた、この観点を支持することが必要だと考えた：《我々の党に入ってきた共産党員がいかに活動しているかを我々は知っている。従って彼等と共に活動することを禁ずるのは全く馬鹿げたことであろう……》

廖仲愷が総括の発言をした。

《他の政党の党員が我々の党に加入することを制限する項目を規約の中に入れることに私は断固反対する。私は諸君に尋ねる：国民党は革命政党か否か、国民党は社会主義の原理に従うのか。他の革命政党と団結した時にはじめて我々は革命を勝利のうちに成就できることを今こそ、知る時である。今、我々は勝利のために全力を傾けている。しかるに、我々と共に闘うことを欲し、我々の綱領を受け入れている人々が我々の隊伍に加わるのを何故禁止しなければならないのか。革命のためには我々は我が国の全ての革命勢力と団結しなければならない。諸君は党内での論争を恐れているが、共産党員は論争のためではなく、行動するために入党しているのである。これ程の議論を引き起す提案は有害であり、それは否決されるべきである。廖仲愷の熱烈な演説はその途中、拍手や賛同の意を表わす叫び声で中断されたが、それが終って、投票が行わ

れた。

規約にその新しい項目を入れるという提案は否決され、それに賛成投票したのはわずか数人の代議員であった。

かくして国民党第一次大会で中国共産党との合作が正式に成立した。この決定は孫文と国民党左派及び全人民による帝国主義と封建制に対する闘いを活性化した。大会の第8日目は、当時中国共産党の最も権威ある代表者である李大釗がその会議で議長を務めた点で極めて意味深いものであった。この日は組織のことが問題にされた。

大会の9日目及び最終日の議長は孫文が務めた。会議が始まる前に、ホールに投票のために2つの大きな壺が持ち込まれた。

本日、国民党中央執行委員会の選挙が予定されている、と孫文が言った。それ以外に、12人の代議員が署名の上、提案していた宣言に対するいくつかの追加条件を審議する必要があった。

発言を認められて、廖仲愷は3つの要望を宣言に加えたいと述べた：外国人に占有されている租界を中国に返還すること：税関の返還：公教育のために義和団の賠償金を中国に渡すこと。この提案は大多数の賛成を得て採択された。中央執行委員会の選挙の前に、廖仲愷が発言した：《我々が広州に軍官学校を設立したことは同志諸君にすでに知らせてある。兵の間に宣伝を行うためには基幹となる将校が必要である。今や、我々はこれを養成することができるようになった。この学校に入学を希望する者は誰でも然るべき願書を提出できる。入学には中等教育を受けていることが必要である。各省は10人から15人の学生を派遣する権限がある。》

孫文は中央執行委員と監察委員の候補者のリストを提出した。このリストは彼が多くのだ議員の同意に基づいて作成したものである。大会の書記がリストを読み上げた。選出は単純多数でやることになった。選挙の結果に対して好意的な拍手が送られた。

最後の会議で孫文は述べた：《開会の日から10日が過ぎ、書記がたった今、この大会で為されたことを全て諸君に報告した。採択された宣言は広く普及させ、宣伝する必要がある。何故なら、我々の党の目的と任務がその中に簡潔に表現されているからである。今日から我々は宣言の精神を十分に体して活動しなければならない。各省で、宣言が全党員の活動の基礎とならなければならない。》

第2の重要な問題は我々の政治原理である。いかなる党員もこれを忘れてはならない。その実現の為に我々は最後まで闘わねばならない。同盟会の結成から満州王朝の打倒まで、ずっと、我々はそれを実現しようとする努力、現在もそれを捨ててはいない。しかし、ただ我々は成果を得ることができない。何故なら我々是非組織的に活動したからである。我々はしっかりした計画を持っておらず、また各党員は個人的に恐怖や危険に曝されて活動した。その故にこそ、我々は党を改組したのである。我々がこの大会を招集したのは我々の過去の誤まりを考慮に入れ、さらに実りある活動のための新しい道を探し出し、我々の党の規律を強化するためであった。今や党の改組が実現したからには、我々は新たなエネルギーをもって、人民が完全に支持している我々の原理を実現する方向に踏み出さねばならない。もしそれを最後まで実行できるなら、勝利は目前である。

第3の重要な問題は政治綱領である。我々には《三民主義》を実現する義務があり、我々の使命として我々が援助しなければならない被圧迫人民にとってこれは役立つであろう。必要があれば個々の問題で綱領を変えても差支ない。しかし、我々の原理は変わらない。綱領に他の重要な項目をさらに追加したり、或いは今採択された項目の中のいくつかを削除する必要が恐らく生ずるのであろう。こうしたことは全て、次の大会で決定することができる。だが、次の大会が召集されるまでは我々はこの大会の決定を完全に、且ついかなる変更も加えず実行しなければならない。党の綱領を独断で変更する権利は誰にもない。一全大会で採択された宣言と綱領の作成には多大の労力と時間を要した。我々はこれらの文書が改組の精神と全く一致していると考えている。修正が必要だと思う人がいたら、その人は次の大会を待って提案しなければならない。以前、我々の活動は我々自身によって崩壊した。それ故、我々は現在まで我々の闘争を成功させることができなかった。今日から、全ての同志は軍隊にいと様様に、規律正しく活動しなければならない。もし指揮官が進撃の命令を下したなら、いかなる部隊もあらゆる危険を省りみず、また新たな命令が出るまでは退却する権利を有していない。いかなる不服従も組織の完全な破壊につながり、軍隊は敗北を喫する。我々は党を厳しい規律に服する革命軍と見做さなければならない。本大会で党は完全なる改組を成し遂げたので、もしここでこの決議が全て実行されるなら、我々は真の勝利を得る

ことができるであろう。

同志諸君，より固く旗を握れ，さあ活動しよう》孫文はこの言葉で演説を締め括った。それから彼は国民党旗を指し，全代議員に起立するよう求めた。代議員はこれに向って一斉に礼をした。

全員で万歳を唱えた。

《国民党第一次大会万歳》

《中華民國万歳》

ここに国民党第一次全国代表大会が終った。